

在沖米国総領事

アルフレッド・マグルビー 殿

米海軍兵 2 名による集団強姦致傷事件に関する抗議、申し入れ

去る 10 月 16 日未明、沖縄本島中部で発生した集団強姦致傷事件で米テキサス州フォートワース海軍航空基地所属クリストファー・ダニエル・ブローニング上等水兵、スカイラー・アンドリュー・ドージャーウォーカー三等兵曹が緊急逮捕された。

被疑者米兵 2 名は共謀のうえ、帰宅途中の 20 代女性に背後から襲い掛かり、首を絞め、そのまま人気のない場所に引きずり込んで暴行に及んだという。2 米兵が事件当日に沖縄を離れ、グアムに移動する予定だったことを踏まえると、犯行態様は極めて計画的かつ悪質で、卑劣極まりない。事実であれば、言語道断の許しがたい凶悪犯罪である。

沖縄にあっては、今年 8 月に那覇市で発生した女性への強制わいせつ致傷事件で在沖米海兵隊員が逮捕されたばかりである。県民総体の再三再四にわたる配備撤回要求を無視して、MV22 オスプレイが強行配備され、訓練が強行される中、米軍は一体どれだけの女性の人権を蹂躪し、市民を恐怖のどん底に陥れるつもりか。

繰り返される米軍・米兵の蛮行に、もはや県民の怒りは受忍限度を超えた。沖縄に米軍基地が存在する限り、県民が安穏な暮らしを送ることは不可能である。この煮えたぎる怒りの矛先は、在沖米軍基地すべてに向かい、「基地撤去」の叫びとなるだろう。

米国政府は、本凶悪犯罪を日米安保体制崩壊の兆しと受け止めるべきだ。それほどに事態は深刻である。

以下、満腔の怒りと万感の悲しみをもって抗議し、申し入れる。

記

1. 被害女性へ速やかに謝罪のうえ、完全な補償を行うこと
2. 被害女性の心身のケアが十分になされ、プライバシー保護に努めること
3. 被疑者 2 米兵に対しては厳正な捜査を尽くしたうえで、厳罰をもって処すること
4. 一時駐留米兵の基地外宿泊および夜間外出を全面的に禁止すること
5. 日米地位協定を全面改正し、主権と人権を守ること
6. 全ての在沖米軍基地を速やかに撤去すること

以上

2012 年 10 月 18 日

衆議院議員 照屋 寛徳



社会民主党沖縄県連合
委員長 新里 米吉



参議院議員 山内 徳信



社民・護憲ネット県議団
団 長 崎山 嗣幸

